

Accuphase

# PRECISION STEREO PREAMPLIFIER

プレジジョン・ステレオ・プリアンプ

## C-3900

### 取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み  
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか  
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
 最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

## 5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード(保証書発行はがき)」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

- \*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは23ページをご参照ください。
- \*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。  
 尚、保証は日本国内のみ適用されます。

**The Accuphase warranty is valid only in Japan.**

### ご注意

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
- ② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。



## マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



## 警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



## 注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

## 付属品をご確認ください

- 取扱説明書(本書) ..... 1冊
- プラグ付きオーディオケーブル(1m) (ASL-10B) ... 1組
- 安全上のご注意 ..... 1冊
- AC電源コード(2m) (APL-1) ..... 1本
- お客様情報の取扱いについて ..... 1枚
- 単3乾電池 ..... 2個
- お客様カード(保証書発行はがき) ..... 1枚
- リモート・コマンダー RC-250 ..... 1個
- 目隠しシール ..... 1枚
- クリーニングクロス ..... 1枚

### 著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

### 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用したりするののも一つの方法です。

## 目次

付属品を確認ください ..... 表紙裏頁

**1. 安全上必ずお守りください** ..... **2**

- ▲ 警告 ..... 2
- ▲ 注意 ..... 3
- ご注意いただきたい事項 ..... 3
- ご留意いただきたい事項 ..... 3
- お手入れ ..... 3

**2. 各部の名前** ..... **4,5**

- フロントパネル、リアパネル ..... 4
- ディスプレイ部 ..... 5

**3. 各部の動作説明** ..... **6~13****フロントパネル** ..... **6~10**

- 1 電源スイッチ ..... 6
- 2 OUTPUTスイッチ ..... 6
- 3 GAINスイッチ ..... 6
- 4 DISPLAYボタン ..... 6
- 5 PHASEボタン ..... 7
- 6 MONOボタン ..... 7
- 7 BALANCEノブ ..... 7
- 8 RECORDERボタン ..... 8
- 9 COMPENSATORスイッチ ..... 8
- 10 PHONES LEVELスイッチ ..... 8
- 11 OPENボタン ..... 8
- 12 ヘッドフォン・ジャック ..... 9
- 13 ATTENUATORボタン ..... 9
- 14 INPUTセレクター ..... 9
- 15 入力ディスプレイ部 ..... 9
- 16 リモート・センサー ..... 10
- 17 レベル・ディスプレイ部 ..... 10
- 18 ボリューム・ノブ ..... 10

**リアパネル** ..... **10~11**

- 19 ライン入力端子  
(LINE AD, TUNER, CD, LINE 1~LINE 3) ..... 10
- 20 バランス入力端子  
(BAL AD, BAL CD, BAL 1, BAL 2) ..... 10
- 21 RECORDER端子 (PLAY, REC) ..... 10
- 22 ライン出力端子 (LINE 1, LINE 2) ..... 10
- 23 バランス出力端子 BAL 1, BAL 2 ..... 11
- 24 外部プリアンプ入力端子 (ライン) ..... 11
- 25 外部プリアンプ入力端子 (バランス) ..... 11
- 26 AC OUT ..... 11
- 27 AC電源コネクター ..... 11

**4. 接続図** ..... **12****5. リモート・コントロール** ..... **13**

- リモート・コマンダー RC-250の取り扱い方 ..... 13
- 使用法/電池について ..... 13

**6. ご使用方法** ..... **14~18**

- 注意 ..... 14
- 使用する前にノブやスイッチ、ボタンの位置を確認します ..... 14
- CDプレーヤーの演奏 ..... 14
- チューナーで放送を聴く場合 ..... 14
- 別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏 ..... 15
- レベル・ディスプレイ部の《表示モード》変更 ..... 16
- コンペンセーターの使用 ..... 17
- ヘッドフォンの使用方法 ..... 17
- レコーダーで録音・再生をする場合 ..... 18
  - 接続 ..... 18
  - 機能 (RECORDERボタン) ..... 18
  - 操作 (再生、録音、電源OFF時のチューナー録音) ..... 18

**7. アナログ・ディスク (AD) の演奏** ..... **19**

- ステレオ・フォノアンプとの接続例 ..... 19
- 演奏の手順 ..... 19

**8. 保証特性** ..... **20****9. ブロック・ダイアグラム** ..... **21****10. 故障かな?と思われるときは** ..... **22****11. アフターサービスについて** ..... **23**安全上必ず  
お守りください

各部の名前

各部の  
動作説明接  
続  
図リモート・  
コントロール

ご使用方法

アナログ・ディスク  
(AD)の演奏

保証特性

ブロック・  
ダイアグラム故障かな?と  
思われるときはアフターサービス  
について

# 1. 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



## 警告

### ■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

### ■付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。

- 感電や火災の原因となります。

### ■ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。

- 感電の原因となります。

### ■電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしたりしない。

- 電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

### ■放熱のため本機の周辺は他の機器や壁等から十分間隔(10cm以上)を空ける。

### ■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

### ■ウッド・キャビネットやボトム・プレート(底板)は絶対に外さない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

### ■火災又は感電を防止するために、屋外、雨がかかる場所及び湿気の多い場所では絶対に使用しない。

### ■脚の交換は危険なので行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

### ■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
  - 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
  - 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
  - 落としたり、破損したりした場合。
- \* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしなければ、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。
- \* 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

### ■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

経年劣化による樹脂部の破損や、端子部のショートにより、感電や火災あるいは故障の原因になることがあります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

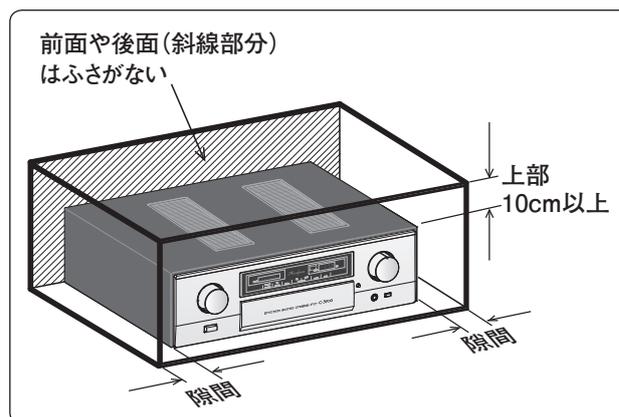
## ラックに設置する場合

### ■密閉されたラックには設置しない。

### ■前面と後面がふさがれたラックには設置しない。

### ■製品の左右や上部に十分な隙間を確保する。

- 放熱には自然対流による空冷方式を採用しているため、上下の通気孔をふさいだり、周囲の通風が確保されなかったりすると本機の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



## 注意

### ■ 次のような場所へは設置しない。

故障の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くの場所
- 極端に温度の低い場所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

### ■ パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。

故障の原因となります。

### ■ 接続ケーブルを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

特に電源を入れたままRCAタイプのピンプラグを抜き差しすると、大きなショック・ノイズが発生し、スピーカーが破損するおそれがあります。

### ■ 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

故障の原因となります。

### ■ 室温35℃以下で使用する。

故障の原因となります。

## ご注意ください事項

■ 本機と他の製品1台との接続の際、バランス・ケーブルとライン(アンバランス)・ケーブルを同時に接続しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

■ 電源スイッチを切ってから10秒以内に再びONしないでください。ノイズ発生などの原因となります。

■ 電源スイッチは、ボリュームを下げてから切ることをおすすめいたします。次回の演奏時に、急に大きな音が出るのを防ぐことができます。

■ ヘッドフォンを使用するときは、本機のボリュームを下げることをおすすめいたします。

スピーカーやヘッドフォンから急に大きな音が出るのを防ぐことができます。

■ レコード・プレーヤーのアームを上げたり下げたりするときは、本機のボリュームを下げるようにしてください。大きな音でスピーカーを破損するおそれがあります。

## ご留意いただきたい事項

■ 本機のボリューム・コントロールは、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチで切り替えるAAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)を採用しています。高能率スピーカーをお使いで、ボリュームやバランスの調整を行う際に、電流スイッチの切り替え動作音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。

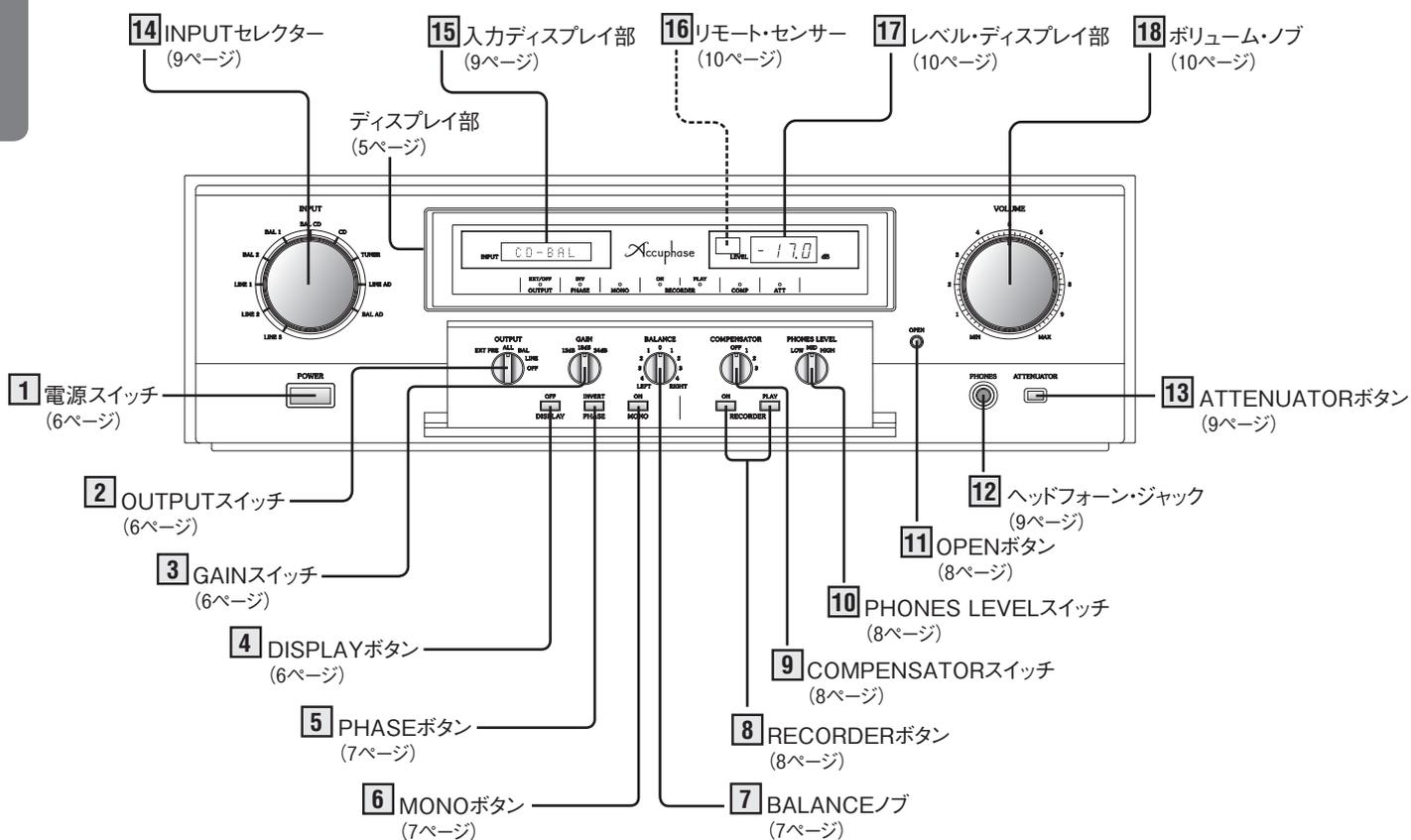
## お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには付属のクロスを使用してください。特にウッド・キャビネットの場合には、表面を傷つけることなく、きれいに拭き取ることができます。
- 付属のクロスは、洗濯して繰り返し使用できます。洗剤で洗濯後は、よく水洗いし乾いた状態でご使用ください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。

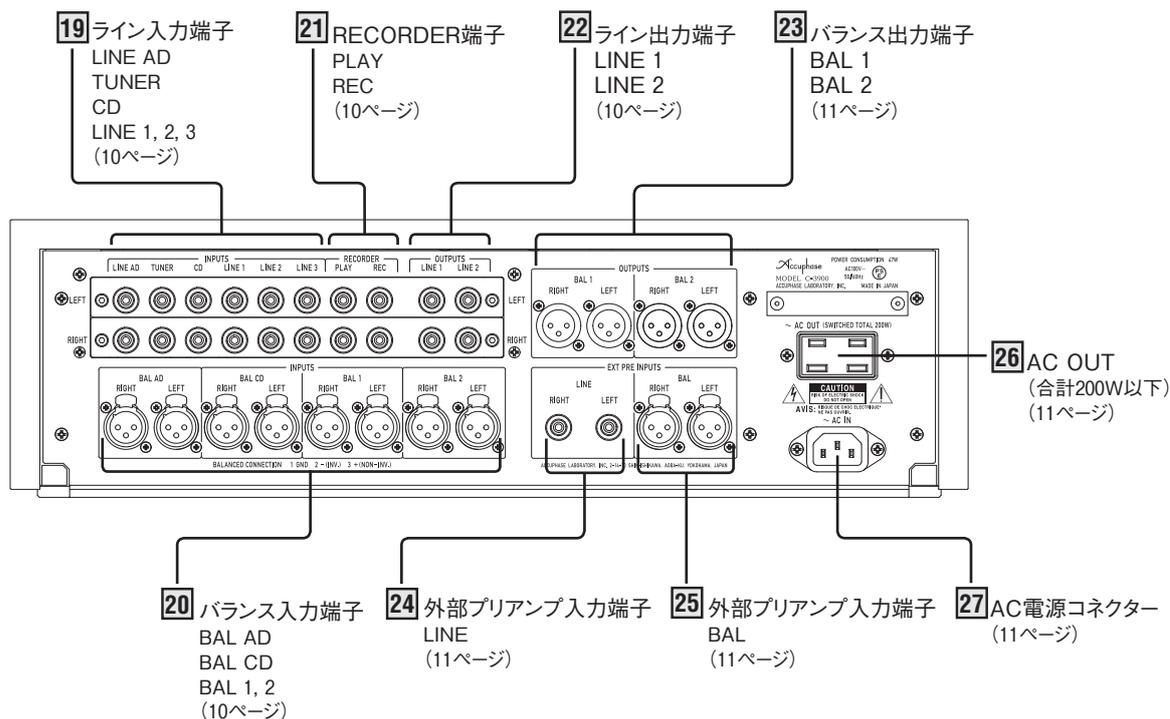
## 2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目( )内のページを参照してください。

### フロントパネル



### リアパネル



## ディスプレイ部

\*イラストは説明用ですので、文字等は実際の表示と異なります。

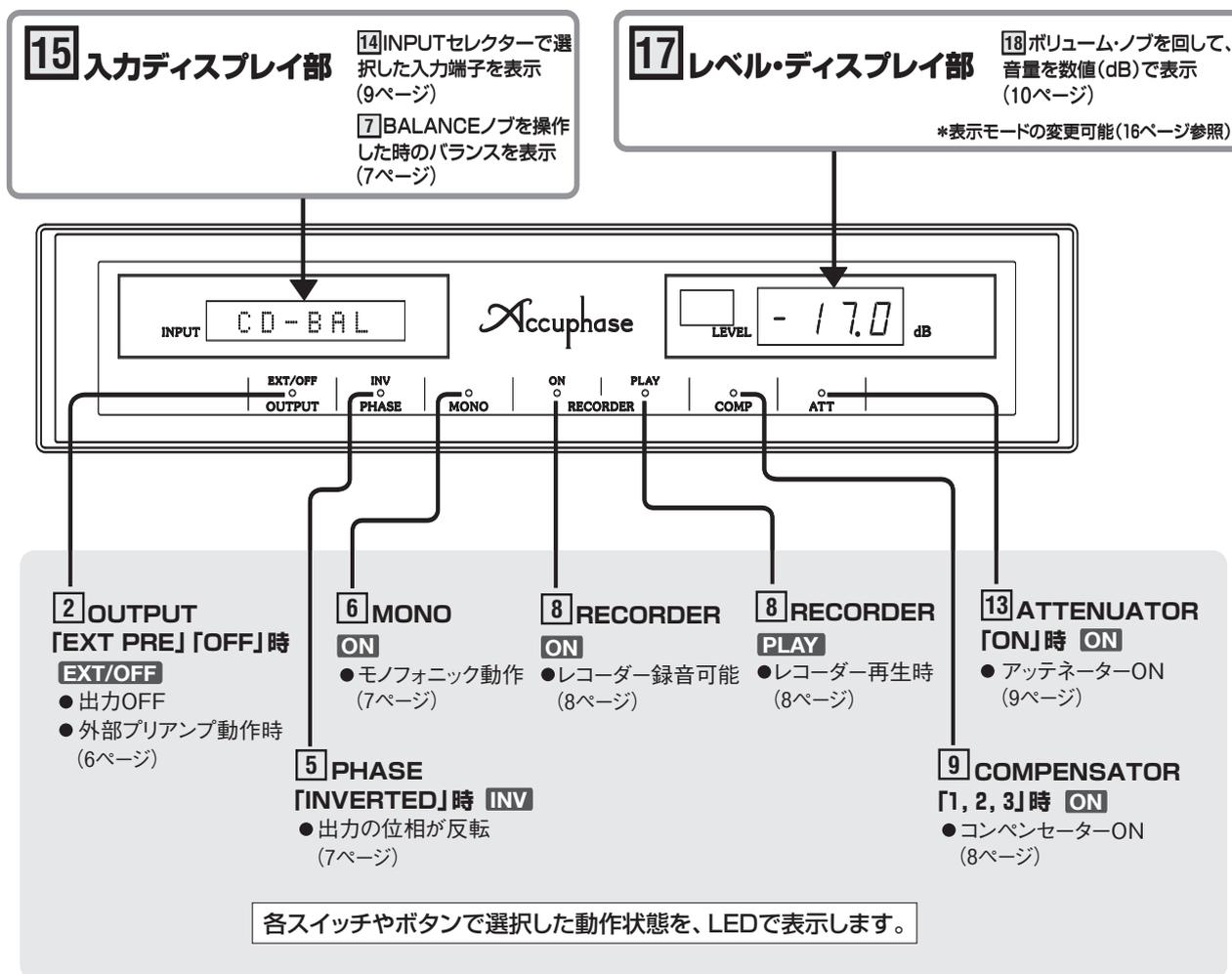
15 入力ディスプレイ部と 17 レベル・ディスプレイ部は、4 DISPLAYボタンで「表示のON/OFF」が可能です。

### 4 DISPLAYボタン:ON(点灯)時

7 BALANCEノブを調整した場合、その動作状態を5秒間表示後、元の表示に戻ります。

### 4 DISPLAYボタン:OFF(消灯)時

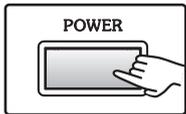
15、17 ディスプレイ部は消灯していますが、INPUTセクターやボリュームの変更およびGAINスイッチ(ゲイン・モード時)、BALANCEノブ等で機能変更した場合、その動作状態を5秒間表示後、再び消灯します。



## 3. 各部の動作説明

### フロントパネル

#### 1 電源スイッチ



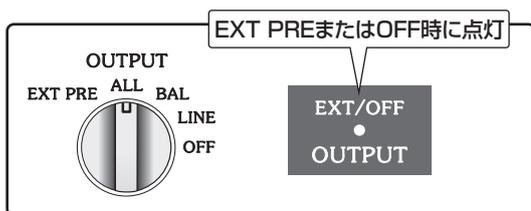
- 押して“ON” : ボタンは
- 再び押すと“OFF” : ボタンは

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

- \* 電源スイッチをOFFにすると、OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジションにしたときと同様に、**24**、**25**外部プリアンプ入力端子に接続した信号を**22**、**23**出力端子に出力します。
- \* 電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしないでください。ノイズ発生などの原因となることがあります。

#### 2 OUTPUTスイッチ

出力端子を選択したり、入力を外部入力端子に切り替えたりするスイッチです。

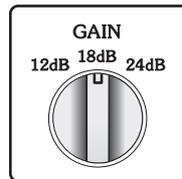


- EXT PRE** : 接続した外部プリアンプの出力に切り替わります(15ページ参照)。
- ALL** : 全ての出力端子から出力します。
- BAL** : バランス出力端子から出力します。
- LINE** : ライン出力端子から出力します。
- OFF** : 4系統の出力信号が全て切れます。

- 通常は“ALL”のポジションでご使用ください。
- “EXT PRE”と“OFF”ポジションのときはディスプレイ部の“EXT/OFF”のLEDが点灯します。
- ヘッドフォン出力はOUTPUTスイッチに関係なく出力されます。ヘッドフォン出力だけを楽しむ場合はOFFのポジションにしてください。
- \* ALLポジションはレベルのゲイン・モード設定時にも使用します(16ページ参照)。

#### 3 GAINスイッチ

本機の増幅度を12dB、18dB、24dBの中から選択します。



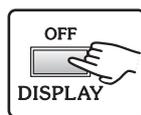
入カソースの出力レベルやパワーアンプのゲイン、スピーカーの能率などを含めた総合的なバランスを整えてボリュームの使用位置などを使いやすくするため、最適な増幅度(ゲイン)に設定します。

- 通常は18dBで使用します。

- ボリュームを少し上げただけで大きな音量になるときは12dBを選択します。
- ボリュームをかなり上げないと十分な音量にならないときは24dBを選択します。
- \* **17**レベル・ディスプレイ部の表示モードが《ゲイン・モード》のとき、スイッチを切り替えると、レベル・ディスプレイ部に、ゲインを加味したレベルを表示します(16ページ)。

#### 4 DISPLAYボタン

**15**入カディスプレイ部と**17**レベル・ディスプレイ部の表示をDISPLAYボタンでON/OFFします。



- 押して**15**、**17**ディスプレイ部 : 消灯
- 再び押すと**15**、**17**ディスプレイ部 : 点灯



メモ

④ DISPLAYボタンOFFの場合、表示している文字は消灯しますが、文字表示されるINPUTセレクター、ボリューム、バランス、ゲイン(ゲイン・モードのみ)等の機能を変更した場合、5秒間それぞれの機能状態を表示後、再び消灯します。

## 5 PHASEボタン

絶対位相を切り替えます。通常出力信号は入力信号と同相ですが、このボタンを押すと出力の位相が反転(180°)して、出力信号は入力信号と逆相になります。



- 押して“INVERTED”(逆相)  
ディスプレイ部のPHASE : 「INV」LED点灯
- 再び押すと同相 : 「INV」LED消灯

INVERTED(逆相)時:バランス出力コネクタ2番と3番の極性は、次のように変わります。入力や出力機器の極性と合わせて設定してください。

- ①: グラウンド
- ②: インバート(-) ⇨ ノン・インバート(+)
- ③: ノン・インバート(+) ⇨ インバート(-)

メモ

INPUTセレクター、レコーダーなど全ての入力に対して、それぞれ位相設定が可能です。その設定は入力毎に記憶(LEDの点灯/消灯で確認)することができます。

ソース側機器(CDプレーヤーなど)と出力側機器(パワーアンプなど)との様々な極性の組み合わせに対しては下記1から9の組み合わせを目安にしてください。

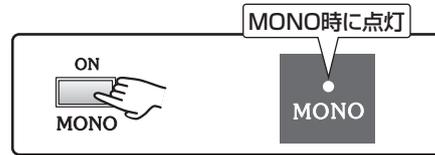
位相は合わせなくても再生可能です。

ソース側機器(極性)	出力側機器(極性)	本機のPHASE設定
1 バランスコネクタ3番(+)	⇨ バランスコネクタ3番(+)	⇨ 同相(INV LED 消灯)
2 バランスコネクタ3番(+)	⇨ バランスコネクタ2番(+)	⇨ 逆相(INV LED 点灯)
3 バランスコネクタ2番(+)	⇨ バランスコネクタ3番(+)	⇨ 逆相(INV LED 点灯)
4 バランスコネクタ2番(+)	⇨ バランスコネクタ2番(+)	⇨ 同相(INV LED 消灯)
5 ライン(RCA)	⇨ バランスコネクタ3番(+)	⇨ 同相(INV LED 消灯)
6 ライン(RCA)	⇨ バランスコネクタ2番(+)	⇨ 逆相(INV LED 点灯)
7 バランスコネクタ3番(+)	⇨ ライン(RCA)	⇨ 同相(INV LED 消灯)
8 バランスコネクタ2番(+)	⇨ ライン(RCA)	⇨ 逆相(INV LED 点灯)
9 ライン(RCA)	⇨ ライン(RCA)	⇨ 同相(INV LED 消灯)

## 6 MONOボタン

ステレオとモノフォニックを切り替えます。

モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



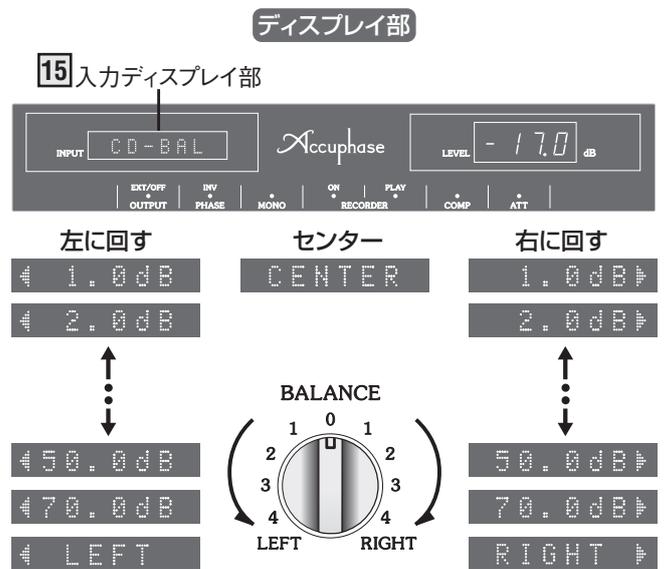
- 押して“MONO”(モノフォニック) : 「MONO」LED点灯
- 再び押すとステレオ再生 : 「MONO」LED消灯

## 7 BALANCEノブ

左右の音量バランスを調整することができます。

BALANCEノブを回すと、⑮入力ディスプレイ部に、変化量(左右レベルの差)が5秒間表示されます。

通常はセンター(0)で使用します。

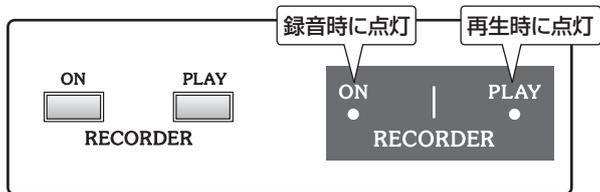


調整ステップ

CENTER, 1, 2, 3, 4, 5, 7, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 50, 70, LEFT/RIGHT

## 8 RECORDERボタン

21 RECORDER端子に接続したレコーダーで録音・再生をする場合に使用します。(詳細は18ページ参照)



### RECORDER ON

INPUTセクターで選んだ信号が21 RECORDER REC端子に出力され、レコーダーで録音可能になります。

#### 録音

- ONを押して録音 ディスプレイ部:「ON」点灯
- 再び押すと録音OFF ディスプレイ部:「ON」消灯

### RECORDER PLAY

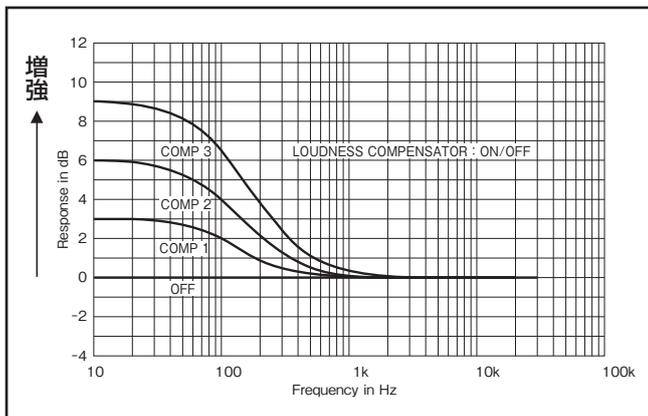
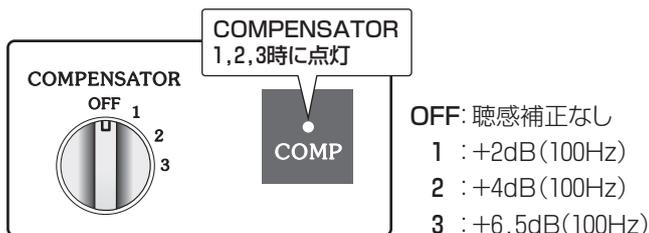
21 RECORDER PLAY端子に接続した信号を再生します。

#### 再生

- PLAYを押して再生 ディスプレイ部:「PLAY」点灯
- 再び押すと再生OFF ディスプレイ部:「PLAY」消灯

## 9 COMPENSATORスイッチ

小音量で聴く場合など、低域が不足する場合、3段階に増強し、補正することができます(使用方法は17ページ参照)。



コンペンセーター特性

## 10 PHONES LEVELスイッチ

ヘッドフォンの出力レベルを3段階に切り替えます。使用方法は17ページ参照



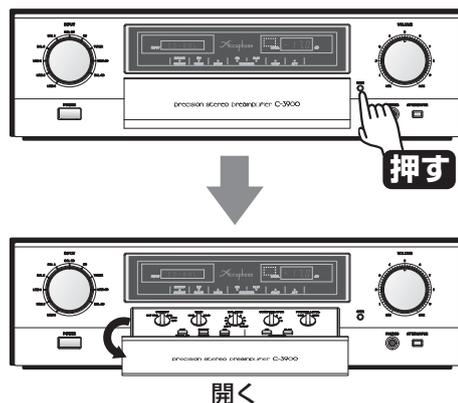
- HIGH: 標準より10dBレベルを上げます
- MID: 標準
- LOW: 標準より10dBレベルを下げます

## 11 OPENボタン

押すとサブパネルが開きます。閉める時はサブパネルを直接手で閉めてください。

#### 開けるとき

サブパネルを開けるには11 OPENボタンを押します。

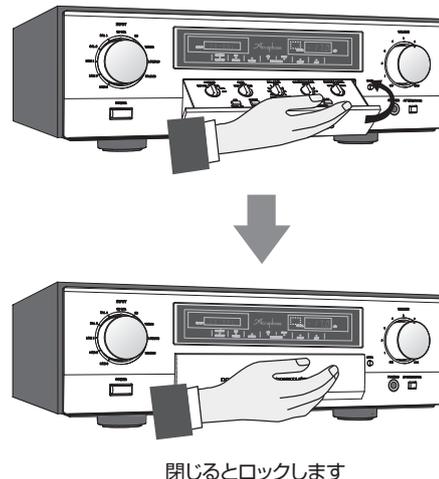


### 注意

サブパネルの縁に指をかけて直接開けないでください。サブパネル開閉機構を破損する恐れがあります。

#### 閉じるとき

開放したサブパネルの下を持ち上げるように閉じます。



## 12 ヘッドフォン・ジャック

ヘッドフォンで演奏を楽しむ場合、ヘッドフォン・プラグをこのジャックに差し込んでください。

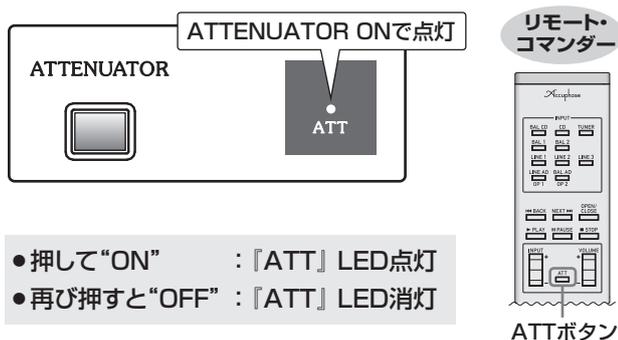
- ヘッドフォンの音量は本機の**18**ボリューム・ノブでコントロールしてください。ボリューム位置が使いにくい場合は、**10**PHONES LEVELスイッチを併用してください(17ページ)。
- インピーダンス8Ω以上のヘッドフォンをご使用ください。ただし、インピーダンスが高くなるにつれて、得られる音量が小さくなります。インピーダンスが100Ω以上の場合や能率の低いヘッドフォンはご注意ください。
- **2**OUTPUTスイッチで“EXT PRE”を選択した場合でも、本機のINPUTセレクターやRECORDERボタンで選択された信号がヘッドフォンから出力されます。

### 注意

ヘッドフォンで演奏中、OUTPUTスイッチをOFF以外にするとスピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

## 13 ATTENUATORボタン

本機の出カレベルを標準状態から瞬時に下げることができます。減衰量は20dB(1/10)です。



- 押して“ON” : 『ATT』LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 『ATT』LED消灯

### レベル・ディスプレイ部が《ゲイン・モード》時

(16ページ参照)

アッテネーターON時、**17**レベル・ディスプレイ部の表示は、現在のレベルに-20dB加算された値に変わります。OFF時は、元のレベル値に戻ります。

## 14 INPUTセレクター

リアパネルの各入力端子に対応するポジションのプログラム・ソースを選択します。

- 選択されたポジションは、ノブの外周にLEDが点灯し、**15**入力ディスプレイ部に文字表示されます。
- リモート・コマンダーでも同様に切り替えることができます。

### LINE AD、TUNER、CD、LINE 1～LINE 3

リアパネルの各入力端子へ接続したライン(アンバランス)入力機器を選択します。

### BAL AD、BAL CD、BAL 1, 2

リアパネルの入力端子へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

- **5**PHASEボタンの設定を入力端子毎に記憶できます。  
\*INPUTセレクターは指標がなく、エンドレス(ストップのない)のロータリー・スイッチを使用しています。

## 15 入力ディスプレイ部

- **4**DISPLAYボタンON時には、**14**INPUTセレクター(またはリモート・コマンダー)で選択された入力が表示されます。

### 表示例

TUNER	→	TUNER
CD	→	CD
BAL 1	→	BAL 1

- \* **7**BALANCEノブを回すと、**15**入力ディスプレイ部に、変化量(左右レベルの差)が5秒間表示されます(7ページ参照)。

## 16 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーの赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください(リモート・コントロールの詳細は13ページ)。

## 17 レベル・ディスプレイ部

18 ボリューム・ノブを回した時、その音量を数値(dB)で表示します。

工場出荷時における「表示モード」の初期設定はMAXを0としてボリューム位置の減衰量を表示する「アッテネーター・モード」です。

### 表示例



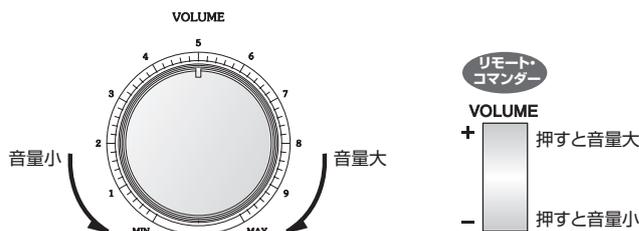
\*詳細な表示例は16ページ参照

### メモ

- 初期設定の「アッテネーター・モード」から、増幅度(ゲイン)表示の「ゲイン・モード」に設定変更することができます(16ページ参照)。

## 18 ボリューム・ノブ

右へ回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。その音量が数値(dB)で17 レベル・ディスプレイ部に表示されます。リモート・コマンダーでも同様に動作させることができます。



## リアパネル

### 19 ライン入力端子 — LINE AD, TUNER, CD, LINE 1~LINE 3

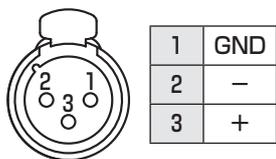
一般的なハイレベル入力端子です。

\* LINE(ライン)とUNBALANCE(アンバランス)は同一です。  
本機ではLINE(ライン)として表記しています。

### 20 バランス入力端子 — BAL AD, BAL CD, BAL 1, BAL 2

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力コネクタです。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、以下のようになっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて接続してください。



\* ソース側機器と極性が本機と逆の場合は5 PHASEボタンで合わせることができます(7ページ参照)。

\* バランス・ケーブルは当社で別売しています。

### 21 RECORDER端子 — PLAY, REC

レコーダーを接続し、録音・再生が可能です(詳細は18ページ参照)。

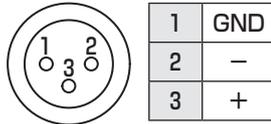
### 22 ライン出力端子 — LINE 1, LINE 2

ライン・ケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

## 23 バランス出力端子 — BAL 1, BAL 2

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクタです。パワーアンプが、バランス入力端子を装備している場合には、バランス伝送が可能です。

ピンの極性は、以下のようになっていますので、パワーアンプ側の極性を確認して接続してください。



- 入力ソース側またはパワーアンプ側の極性が本機と逆の場合は、**5** PHASEボタンで合わせることができます。(7ページ参照)
- バランスケーブルは当社で別売しています。

## 24 外部プリアンプ入力端子 — (ライン)

外部のプリアンプの出力を、ラインケーブルで接続します。  
(詳しい説明は15ページ参照)

- OUTPUTスイッチをEXT PREポジション、もしくは本機の電源を切ると、この端子の入力信号は**22**ライン出力端子に出力されます。
- \* **23** バランス出力端子に出力することはできません。

## 25 外部プリアンプ入力端子 — (バランス)

外部のプリアンプ出力を、バランスケーブルで接続します。  
(詳しい説明は15ページ参照)

- OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジション、もしくは本機の電源を切ると、この端子の入力信号は**23** バランス出力端子に出力されます。
- \* **22** ライン出力端子に出力することはできません。

## 26 AC OUT

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。



### 注意

接続する機器の消費電力は合計200Wを超えないようにする。

## 27 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



### 警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

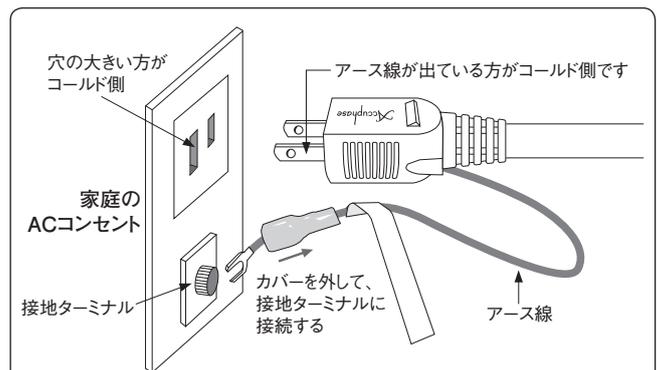
#### ■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

#### ■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり、端子部がショートをおこしたりして、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



### 警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

#### ■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

#### メモ

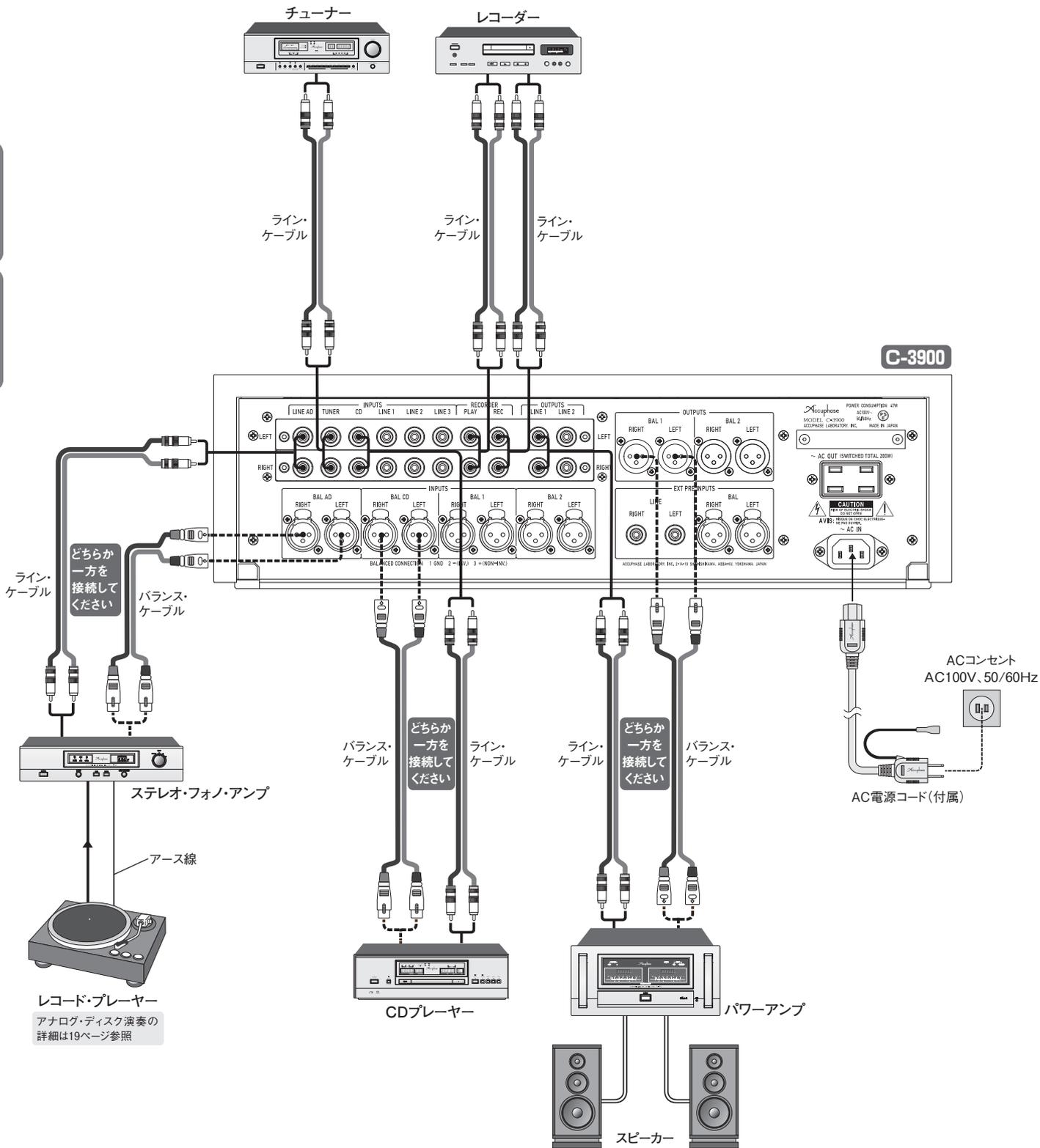
- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。
- 本機の**26** AC OUTは、下側がコールドです。

# 4. 接続図

**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
  - 同一機種同士でバランス用とライン用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。ノイズを発生させる原因となります。

接続図  
リモート・コントロール



# 5. リモート・コントロール

## リモート・コマンダー RC-250の機能

### ⑥ 発光部

本体の⑩リモート・センサーに向けます。

### ① INPUT

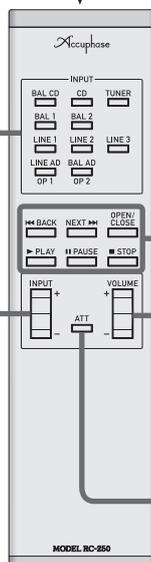
INPUTセレクトボタン(本体の⑭INPUTセレクト)  
本体の⑭INPUTセレクトの周囲にある、選択した  
入力端子のインジケータが点灯します。

### ② INPUT

INPUTセレクトボタン(本体の⑭INPUTセレクト)  
本体の⑭INPUTセレクトの周囲にある、入力端子  
のインジケータが移動します。

+ 点灯したインジケータが右方向に移動します。

- 点灯したインジケータが左方向に移動します。



### ④ CDプレーヤーのコントロールボタン

アキュフェーズのCDプレーヤーをコントロールできます。  
(DP-100, DP-70, DP-80を除く)

### ③ VOLUME

ボリューム調整ボタン(本体の⑮ボリューム・ノブ)

+ 本体の⑮ボリューム・ノブが右に回転し音量が  
大きくなります。

- 本体の⑮ボリューム・ノブが左に回転し音量が  
小さくなります。

### ⑤ ATT

ATTENUATORボタン

出力を20dB下げます。  
(本体の⑬ATTENUATORボタン)

## ご使用方法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑩リモート・センサーに向けて、  
図の範囲内でお使いください。

## 乾電池について

### ■乾電池の交換時期

操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期ですので、新しい乾電池  
と交換してください。

- 使用する乾電池は、単3形を2個、両方とも新しい乾電池に交換してくだ  
さい。
- 乾電池を廃棄するときは、地域の環境保全にご注意ください。

## 警告

- 乾電池は充電しない。乾電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原  
因となります。
- 電池ケースの電極部に金属類が触れないようにする。

## 注意

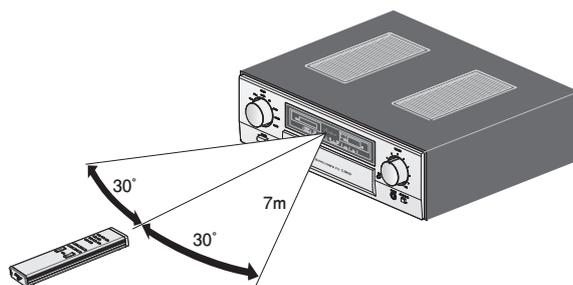
### ■乾電池について

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

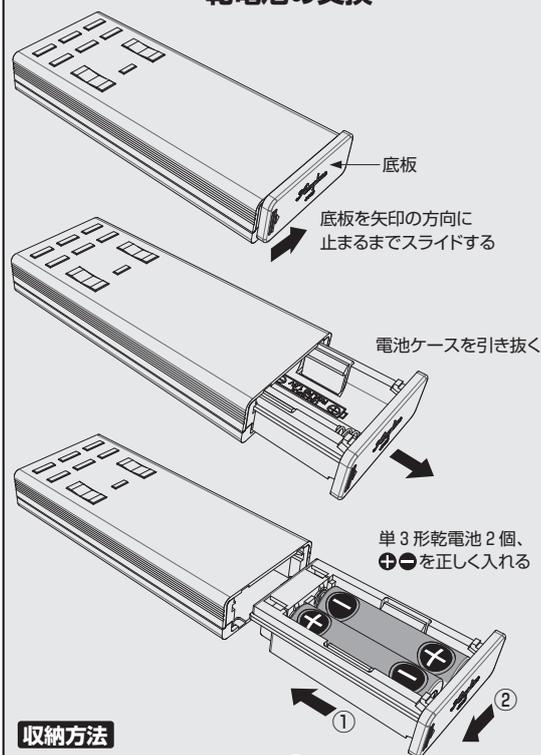
- 乾電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、+ (プ  
ラス)、- (マイナス) を正しく合わせる。
- 新しい乾電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なる  
ものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、乾電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。  
漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

### ■リモコンを落としたり、液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に  
置かないようにしてください。



## 乾電池の交換



### 収納方法

電池ケースをしっかり押し込んで①  
底板を矢印方向にスライドして収納する②

## 6. ご使用方法



### 注意

接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

### 使用する前にノブやスイッチ、ボタンの位置を確認します

- VOLUME : MIN(下げた状態)
- OUTPUT : ALL
- BALANCE : 0(センター)
- COMPENSATOR : OFF(LED消灯)
- PHASE : 同相(LED消灯)
- MONO : OFF(LED消灯)
- RECORDER ON : OFF(LED消灯)
- RECORDER PLAY : OFF(LED消灯)
- ATTENUATOR : OFF(LED消灯)

### CDプレーヤーの演奏

\*接続図は12ページ参照

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCDなどの<sup>19</sup>ライン入力端子へ接続します。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、BAL CDなどの<sup>20</sup>バランス入力端子をご使用ください。

#### 演奏の手順

- ① VOLUMEが下がっていることを確認し、本機やCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にします。
- ② INPUTセレクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。VOLUMEを調整して再生状態を確認してください。
- ④ MONOボタンをON(モノフォニック状態)にし、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーターやアッテネーターなどの効き具合をお試しください。

### チューナーで放送を聴く場合

\*接続図は12ページ参照

チューナーの出力ケーブルをリアパネルのTUNERなどの<sup>19</sup>ライン入力端子へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、BAL 1, BAL 2などの<sup>20</sup>バランス入力端子を使用することができます。

CD再生と同じ要領でINPUTセレクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。



**メモ** 本機の電源OFF時にタイマーで放送を録音する場合は、18ページを参照してください。

## 別システムのプリアンプやAVアンプでの演奏

別システムのプリアンプやAVアンプで演奏を楽しむ場合、その機器の出力を本機の[24],[25]外部プリアンプ入力端子へ接続しておけば、パワーアンプへの接続を変えることなく演奏機器を切り替えることができます。操作は、[2]OUTPUTスイッチを『EXT PRE』ポジションにします。

メモ：本機の電源をOFFにした場合には、OUTPUTスイッチのポジションに関係なく「EXT PRE」と同じ接続・動作になります。

**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

接続したプリアンプの音量が下がっていることを確認してEXT PREに切り替えてください。

### 入・出力の接続

ライン接続の場合

[24]外部プリアンプ入力端子LINEに入力 ⇨ [22]ライン出力端子 LINE1, LINE 2から出力

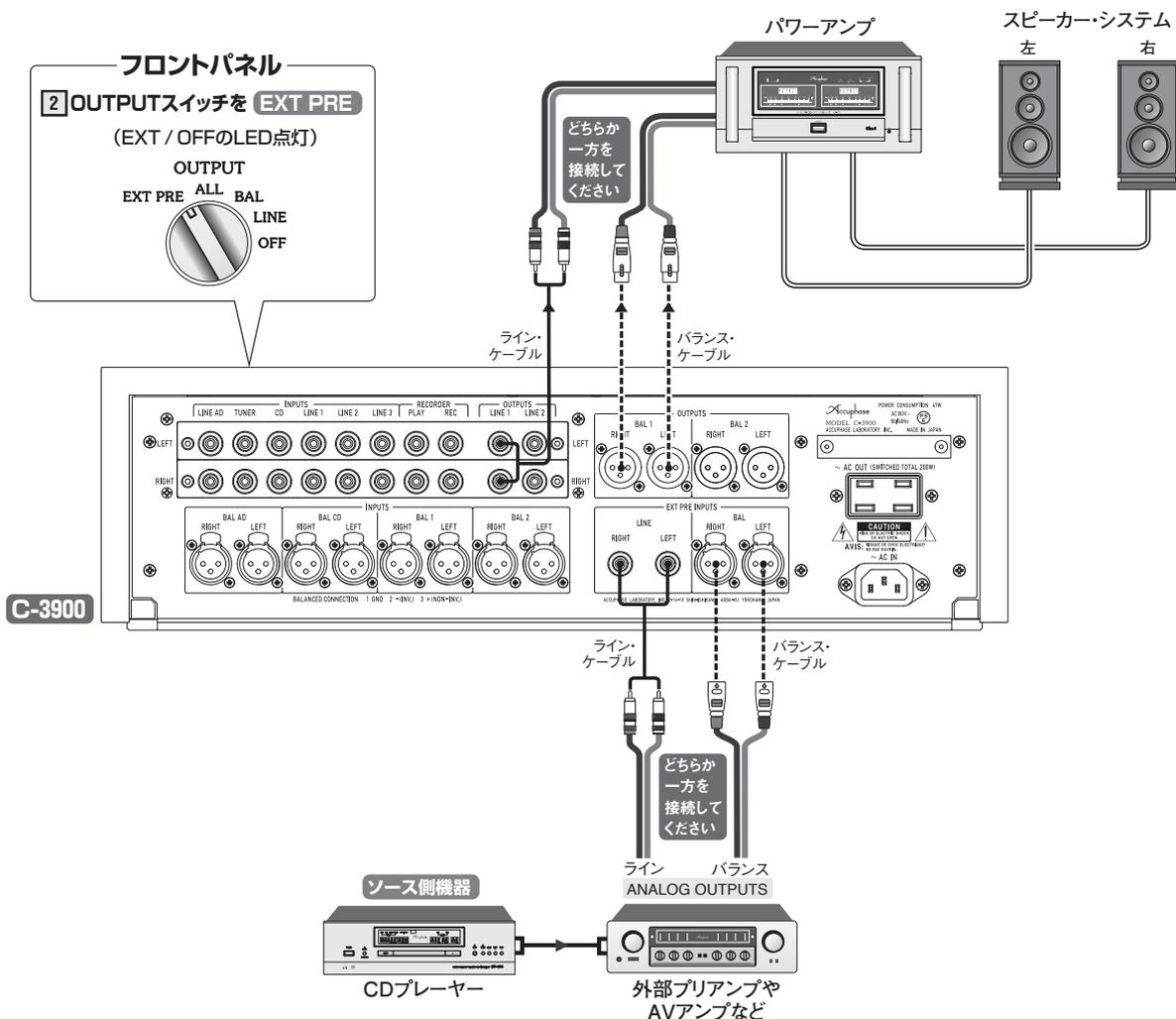
バランス接続の場合

[25]外部プリアンプ入力端子BALに入力 ⇨ [23]バランス出力端子 BAL 1, BAL 2から出力  
極性を変えることはできません

\* 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

\* 『EXT PRE』の場合、全てのコントロールは接続した別のプリアンプで行います。

但し本機の[12]ヘッドフォン・ジャックには、本機のINPUTセレクターやRECORDER PLAYボタンで選択した信号が出力されます。



## レベル・ディスプレイ部の《表示モード》変更

⑫レベル・ディスプレイ部の《表示モード》は《アッテネーター・モード》と《ゲイン・モード》があります。出荷時初期設定《アッテネーター・モード》は、⑬ボリューム・ノブを回すと、ノブを最大に回した状態(MAX)を基準(0dB)として、音量レベルを最小(MIN)まで表示します。この表示モードを変更して《ゲイン・モード》に設定することができます。《ゲイン・モード》では、ボリューム・ノブの回転に応じた増幅度(ゲイン)を表示します。

### ボリューム・ノブを回した時の表示例

#### アッテネーター・モード(初期設定)

ボリュームMAX時を基準(0dB)として、減衰量(絞った量)を(dB値)で表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブの位置 → 最大(MAX)

- 95.0 dB ↔ -0.1 dB ↔ 0.0 dB

0.0 dB	~	-8.0 dB	0.1dBステップ
-8.0 dB	~	-30.0 dB	0.2dBステップ
-30.0 dB	~	-50.0 dB	0.5dBステップ
-50.0 dB	~	-60.0 dB	1.0dBステップ
-60.0 dB	~	-74.0 dB	2.0dBステップ
-74.0 dB	~	-80.0 dB	3.0dBステップ
-80.0 dB	~	-95.0 dB	5.0dBステップ
			MIN

各レベルのステップ数

#### ゲイン・モード

\* ⑬ GAINスイッチで表示が変わります。

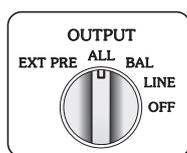
ボリュームの回転に応じた入力から出力までの実際の増幅度(ゲイン)を表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブの位置 → 最大(MAX)

-	↔	-83.0 dB	↔	-6.0 dB	↔	12.0 dB	12dBポジションの場合
-	↔	-77.0 dB	↔	0.0 dB	↔	18.0 dB	18dBポジションの場合
-	↔	-71.0 dB	↔	6.0 dB	↔	24.0 dB	24dBポジションの場合

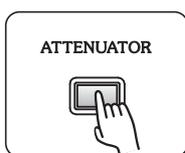
## 設定の変更方法

### 『ゲイン・モード』に設定変更



② OUTPUTスイッチ

ALLポジションにする



⑬ ATTENUATORボタン

2秒以上押す

- ② OUTPUTスイッチをALLポジションにする。
- ⑬ ATTENUATORボタンを2秒以上押し続ける。
- ⑬ 入力ディスプレイ部に5秒間表示。GainDisp

⇒ ディスプレイ部は『ゲイン・モード』に変更

### メモ

- ⑬ GAINスイッチを切り替えると、表示の数値にそのポジションのゲインが加算されます。(上部のディスプレイ表示例参照)
- ⑬ ATTENUATORボタンON時は、表示(数値)に-20dB加算表示されます(9ページ参照)。

### 『アッテネーター・モード』(初期設定)に戻す

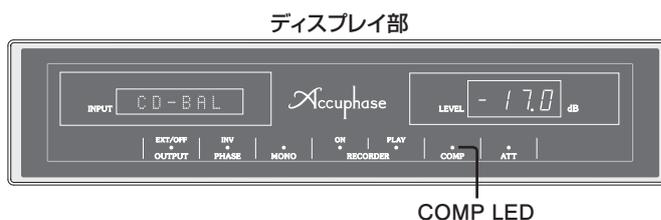
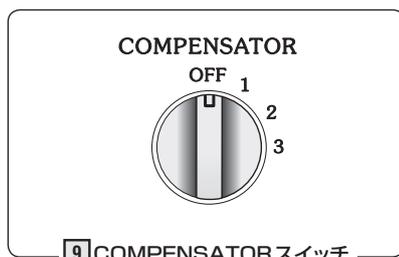
- ② OUTPUTスイッチをALLポジションにする。
- ⑬ ATTENUATORボタンを2秒以上押し続ける。
- ⑬ 入力ディスプレイ部に5秒間表示。Att.Disp

⇒ ディスプレイ部は『アッテネーター・モード』に変更

## コンペンセーターの使用

9 COMPENSATORスイッチは、小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整する機能です。人間の聴感特性は音量が小さくなるにつれて特に低音が不足して聴こえます。低音不足を補うために大変有効です。

OFF	: コンペンセーターOFF		: COMP LED消灯
1	: 低音を少し増強したいとき	100Hzで+2dB増強	: COMP LED点灯
2	: 低音をある程度増強したいとき	100Hzで+4dB増強	: COMP LED点灯
3	: 低音をたっぷり増強したいとき	100Hzで+6.5dB増強	: COMP LED点灯



## ヘッドフォンの使用方法

ヘッドフォンのプラグを12ヘッドフォン・ジャックに差し込んでください。

- ヘッドフォンのレベルは本機の18ボリューム・ノブでコントロールしてください。
- インピーダンス8Ω以上のヘッドフォンをご使用ください。  
ただし、インピーダンスが高くなるにつれて、得られる音量が小さくなります。インピーダンスが100Ω以上の場合や能率の低いヘッドフォンはご注意ください。
- 2 OUTPUTスイッチで“EXT PRE”を選択した場合でも、本機でINPUTセレクターやRECORDERスイッチで選択された信号がヘッドフォンから出力されます。

ご使用方法

## 注意

ヘッドフォンで演奏中、OUTPUTスイッチをOFF以外にするとスピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

## PHONES LEVELスイッチの使い方

ヘッドフォン出力レベルを3段階に切り替えます。

ヘッドフォンの感度に合わせて、本機のボリュームの使用位置などを使いやすくします。



- HIGH : 標準より10dBレベルを上げます
- MID : 標準
- LOW : 標準より10dBレベルを下げます

## レコーダーで録音・再生をする場合

## 接 続

\* 接続図は12ページ参照

リアパネルの⑫RECORDER端子にレコーダーを接続します。

REC 端子 ⇔ レコーダーのLINE IN端子  
 PLAY 端子 ⇔ レコーダーのLINE OUT端子

## 機 能

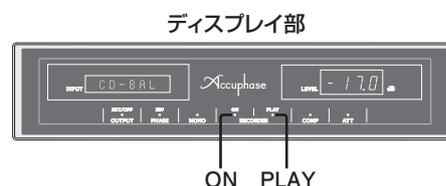
## ⑧ RECORDER ONボタン

- レコーダーを使用して録音をする場合のボタンでRECORDER ONボタンを押すと録音可能となり、ディスプレイ部に“RECORDER ON”のLEDが点灯します。RECORDER REC端子に信号が出力され、録音が可能になります。



## ⑧ RECORDER PLAYボタン

- レコーダーを使用して再生する場合のボタンです。RECORDER PLAYボタンを押すとディスプレイ部に“RECORDER PLAY”のLEDが点灯します。



## 操 作

## 再生：プレイバック

RECORDER PLAYボタンを押して、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

レコーダーを再生だけに使用する場合は、RECORDER端子以外にLINEやCDなどの各入力端子を使うことができます。このときはINPUTセレクターで選び、RECORDER PLAYボタンは使用しません。

## 録音：レコーディング

## レコーディングの操作手順

- 録音するプログラム・ソースをINPUTセレクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- RECORDER ONボタンをONにします。レコーダーへの信号がREC端子から出力されます。
- レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている内容が録音されます。
- 本機のボリューム、アッテネーター、コンペンセーター、バランスは、録音されるレベルには関係しませんので音量を下げても録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。
- RECORDER PLAYボタンを押すと、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

## 電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、RECORDERのREC端子に出力されます。INPUTセレクターやRECORDERボタンなどに関係しませんので、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

## 注意

『電源OFF時』での録音中に、本機の電源を入れしないでください。

録音中に電源を入れると、入力ポジションによっては録音が途切れてしまいます。録音中に電源を入れるときは十分注意してください。

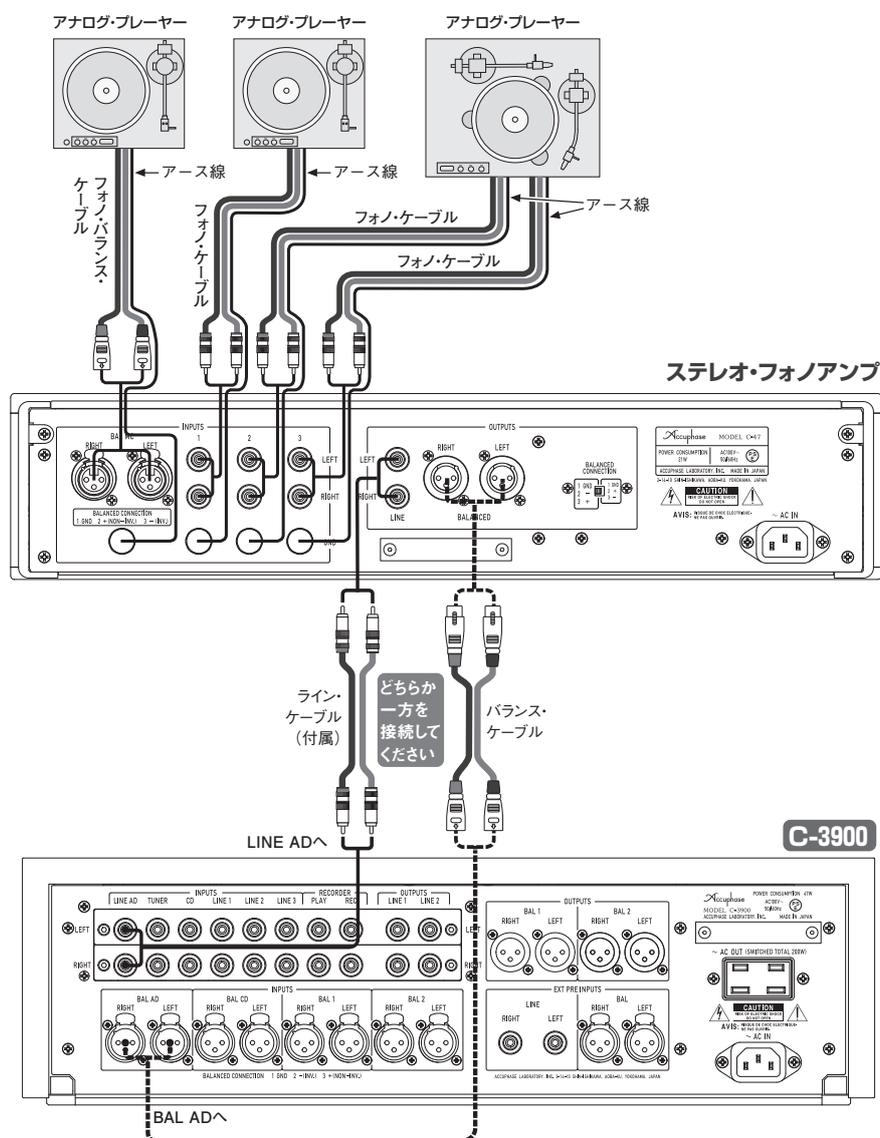
## 7. アナログ・ディスク(AD)の演奏

アナログ・レコードの再生には、別売のステレオ・フォノアンプが必要です。

**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

### ステレオ・フォノアンプとの接続例

- 注意**
- アナログ・プレーヤーの出力ケーブルは、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつなぎ、プレーヤーからのアース線はGND端子に接続してください。
  - 本機との接続は、オーディオ・ケーブルを使用しLEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつないでください。
  - 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



### 演奏の手順

- 1 VOLUMEが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れて、INPUTセレクターでステレオ・フォノアンプを接続した入力を選択してください。
- 2 ステレオ・フォノアンプの詳しい説明や設定はステレオ・フォノアンプの取扱説明書をご覧ください。
- 3 レコード針をレコード面におろし、VOLUMEを上げていくと演奏が聴こえてきます。

## 8. 保証特性

\*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

### 周波数特性

BALANCED INPUT: [BAL AD, 1, 2, CD]

3	～	200,000Hz	+0	-3.0dB
20	～	20,000Hz	+0	-0.2dB

LINE INPUT: [LINE AD, TUNER, CD, LINE 1-3, RECORDER PLAY]

3	～	200,000Hz	+0	-3.0dB
20	～	20,000Hz	+0	-0.2dB

### 全高調波ひずみ率 (全ての入力端子にて)

0.005%

### 入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40kΩ (20kΩ/20kΩ)
LINE	252mV	63mV	20kΩ

### 定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT	: 2V	50Ω
LINE OUTPUT	: 2V	50Ω

### S/N・入力換算雑音 (ゲイン・スイッチ: 18dB 位置)

入力端子	入力ショート(A補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
BALANCED	118dB	-130dBV	112dB
LINE	118dB	-130dBV	112dB

### 最大出力レベル (20~20,000Hz)

BALANCED OUTPUT	: 7.0V
LINE OUTPUT	: 7.0V
RECORDER REC	: 6.0VAD入力時

### LINE最大入力電圧

BALANCED INPUT	: 6.0V
LINE INPUT	: 6.0V

### クロストーク

-90dB (10kHz)

### 最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT	: 600Ω
LINE OUTPUT	: 600Ω
RECORDER REC	: 10kΩ

### ゲイン (GAINスイッチ:18dB位置)

\*GAINスイッチ12dB位置では、下記の値に全て-6dB加算。

\*GAINスイッチ24dB位置では、下記の値に全て+6dB加算。

BALANCED INPUT	→	BALANCED OUTPUT	: 18dB
BALANCED INPUT	→	LINE OUTPUT	: 18dB
LINE INPUT	→	BALANCED OUTPUT	: 18dB
LINE INPUT	→	LINE OUTPUT	: 18dB

### ラウドネス・コンペンセーター

1:	+2dB (100Hz)
2:	+4dB (100Hz)
3:	+6.5dB (100Hz)

### アッテネーター

-20dB

### ヘッドフォン端子

適合インピーダンス 8Ω以上

\*9ページ参照

出力レベル	2V (40Ω)
レベル切替	MIDIに対して LOW : -10dB HIGH : +10dB

### 電源

AC100V 50/60Hz

### 消費電力

47W

### 最大外形寸法

幅477mm × 高さ156mm × 奥行406mm

### 質量

24.6kg

### 付属リモート・コマンダー RC-250

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電源 : DC3V・乾電池 単3形2個使用

最大外形寸法 : 50mm×192.5mm×20.5mm

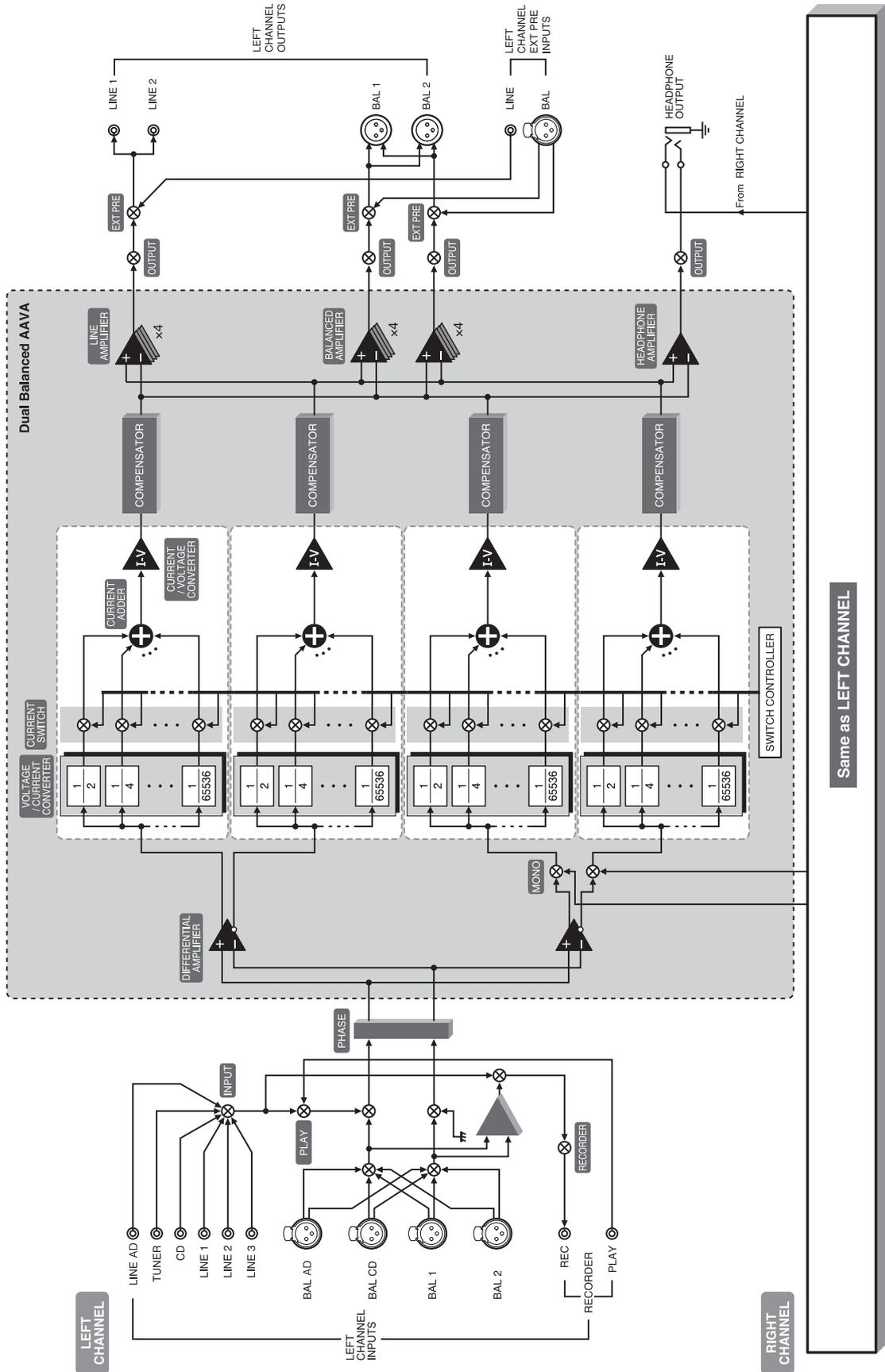
質量 : 215g (電池含む)

### ●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性-第3-2部: 限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

\*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

# 9. ブロック・ダイアグラム



保証特性  
ブロック・ダイアグラム

# 10. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



## 注意

: 接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

現象	原因等	対処方法
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	本体側とコンセント側の挿入箇所を確認してください。
	電源コードが傷んでいる。	危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。
音が出ない。 音が小さい。	電源が入っていない。	電源が入っているか確認してください。
	ソース側機器やパワーアンプの電源が入っていない。	ソース側機器やパワーアンプの電源が入っているか確認してください。
	接続が正しくされていない。	全ての接続ケーブルを確認してください。
	<b>14</b> INPUTセレクターや <b>2</b> OUTPUTスイッチの位置が異なる。	<b>14</b> INPUTセレクターや <b>2</b> OUTPUTスイッチの位置を確認してください。
	<b>13</b> ATTENUATORボタンがONになっている(9ページ)。	<b>13</b> ATTENUATORボタンをOFFにしてください。
	<b>2</b> OUTPUTスイッチがEXT PREになっている(6ページ)。	<b>2</b> OUTPUTスイッチをALLにしてください。
片方のスピーカーから音が出ない。	<b>8</b> RECORDER PLAYボタンがONになっている。	<b>8</b> RECORDER PLAYボタンをOFFにしてください。
	接続が正しくされていない。	全ての接続ケーブルを確認してください。
	ソース側機器や本機のスイッチの設定が異なる。	ソース側機器や本機のスイッチを確認してください。
	上記2つの原因ではない場合。	下記「片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法」をお試しください。
ボリューム・ノブを回すと、スピーカーからノイズが出る。	高能率スピーカーをご使用の場合、ボリューム・ノブを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。	もし「切替動作音」が気になる場合は、 <b>3</b> GAINスイッチ(6ページ)を12dBポジションで使用すると有効です。
入力信号が片チャンネル側に片寄っている。	<b>7</b> BALANCEノブがセンターではない。	<b>7</b> BALANCEノブを確認してください。
定位感がはっきりしない。	片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。	スピーカー・ケーブルの極性(+/-)が正しいか確認してください。
リモート・コマンドで操作できない。	電池が入っていない。	電池を入れてください。
	電池の極性が合っていない。	電池を正しく挿入してください。
	電池が切れている。	新しい電池と交換してください。
	受光部付近に障害物がある。	受光部付近に障害物を置かないでください。
	テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。	テレビやインバーター照明等から離すか、設置の向きを変えてみてください。
表示が消える。	<b>4</b> DISPLAYボタンがOFFになっている。	<b>4</b> DISPLAYボタンを確認してください。

### 片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

手順	方法	結果	原因
1	本機とパワーアンプとの接続ケーブルを以下のように入れ替えます。 ●本機の左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ●本機の右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル	同じスピーカーから音がでない。	パワーアンプやスピーカー・ケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。
		違うスピーカーから音がでない。	本機またはプレーヤーに問題があると考えられます。さらに手順2を行います。
2	本機の入力ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●プレーヤーの左チャンネル → 本機の右チャンネル ●プレーヤーの右チャンネル → 本機の左チャンネル	同じスピーカーから音がでない。	本機に問題があると考えられます。
		違うスピーカーから音がでない。	プレーヤーに問題があると考えられます。

# 11. アフターサービスについて

## 保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
  - \*ご記入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
  - \*『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
  - \*長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

## 保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



## 注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

## その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。  
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

## お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部  
〒225-8508 横浜市青葉区新石川12-14-10  
TEL 045(901)2771(代表)  
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。  
<https://www.accuphase.co.jp/>

## 修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況：できるだけ詳しく

\* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

*enrich life through technology*



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10

TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959

<https://www.accuphase.co.jp/>